

## 泌尿器科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 乳頭状腎癌および嫌色素性腎細胞癌の有転移例に対する薬物療法治療の効果 - 多施設共同研究 -

[研究機関] 北海道大学病院泌尿器科

[研究責任者] 篠原 信雄（泌尿器科・准教授）

[研究の目的] 本邦における腎細胞癌において、組織学的に非淡明細胞癌の中で発生頻度の高い、乳頭状腎細胞癌と嫌色素性腎細胞癌に対するサイトカイン療法や分子標的薬療法による治療効果・予後を明らかにすることを目的とする。

### [研究の方法]

#### ●対象となる患者さん

腎癌の患者さんで、平成12年1月から平成23年12月までの間に腎摘除術、腎部分切除術、腎生検を行った患者さんで、組織学的に乳頭状腎細胞癌・嫌色素性腎細胞癌と診断され、初診時から転移がある症例と手術後に転移が出現した症例でサイトカイン療法または分子標的薬療法を行った患者さんを対象とします。

各患者さんの手術、生検時の病理標本を用いて再評価します。

#### ●利用するカルテ情報

- ・患者背景（年齢、性別、生年月日、初診時の主訴など）
- ・腎癌原発巣の状態（患側、腫瘍径、TNM分類、転移部位、ECOGPS、血液検査結果）
- ・原発巣の外科的治療（手術の有無、手術時年齢、術式、転移部切除の有無、リンパ節郭清の状態）
- ・原発巣の病理組織（組織分類、組織学的異型度、Fuhrman grading、TNM (pathological stage)、副腎浸潤、副腎転移、静脈浸襲、tumor crosis (pathological)
- ・転移出現時の情報（転移部位、初回転移出現日、転移出現時の ECOG PS、血液検査結果（初回出現時）、転移に対する治療

- ・ 転移巣に対する治療（転移部位、外科的治療の有無、局所治療の有無と効果、全身治療の有無とその種類（サイトカイン・分子標的治療・その他）及びその効果
- ・ 転帰、転帰最終確認日

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院泌尿器科 担当医師 篠原 信雄

電話 011-706-5966

FAX 011-706-7853